



■ 総合臨床サイエンス実習・・・チーム医療の第一歩

入寮後3週目から大学生として初めての実習が始まります。この実習の目標は、「人と接し、人を診聴(みきぎ)する職業人になる学生の第一歩として、人への畏敬の念を持ち、生命現象を自然科学と結びつけて考察することができるために、ヒトから得られた標本を用い、学部横断での基礎的実習やグループ作業を通じて、人体を考え、科学的思考・技術および態度の基本を学ぶ」ことです。まず、オリエンテーションで実習目的、安全の確保(スタンダードレコーション)、手順の説明を受けます。その後、学部混成の寮同部屋4人が1グループとなり、生体サンプルを用い

た5種類の実習を行います。ヒトの骨格標本を取扱い、その構造をみる。ヒトの血球像の塗末標本を鏡検し、各種血球の特徴を観察する。血液・尿成分を簡便に分析する。赤血球の溶血試験から浸透圧の理論を学び、血糖値の分析結果から、コンピュータを用いて検量線を作成してヒトの血中濃度を求める。グルコースの構造をコンピュータグラフィックスと分子模型で確認するなど、盛りだくさんな内容となっています。同室の学生が互いに協力・切磋琢磨することで、チーム医療の第一歩と医療人になるためのモチベーションを養成いたします。 化学教室 稲垣昌博

■ 公開講座

去る5月28日の土曜日に、今回で第28回目となる昭和大学公開講座が富士吉田キャンパスで開催されました。「暮らしと健康」をテーマに掲げるこの講座の今回の演題は、昭和大学大学院保健医療学教授の筒井廣明先生による「五十肩・肩こりを知って自分のカラダを見直そう」と昭和大学薬用植物園准教授の平井康昭先生による「薬食同源」でした。当日は台風2号の影響による生憎の雨天、しかも集合場所にバスが来なかったために講演開始時刻を30分ほど遅らせるというアクシデントも起きましたが、講演開始時には120名近くの受講者の方が参加されることとなり、急遽講演会場を第二講堂へ変更するといううれしいハプニングまでありました。

筒井先生の講演は魅力的な話術にのせて、日常生活のなかでの何気ない動きひとつにさえも気を配ることでカラダの健康が維持できるとのお話。

講演後には、多数の方から寄せられた質問に対してひとつひとつ真摯に答えられていたのが印象的でした。

平井先生の講演は薬草の歴史から始まり、身近な薬草とその薬草を用いた料理について、ジョークを交えながら解説されていました。残念なことに、天候と開始時刻の遅延から薬草園の見学は中止になってしまいましたが、講座終了後にも平井先生に質問をなさる受講者の方が大勢いらしたのが印象的でした。

両講演とも大好評で、参加者の方から「秋の公開講座にも参加しますね」との声を多数いただきました。 生物学教室 萩原康夫



■ 国際交流スケジュール

昭和大学の平成23年度夏期国際交流は、以下の通りとなっております。参加する学生の皆さんはこの研修で見聞を広め、後期の学習・生活に大いに役立ててください。

1. ポートランド州立大学サマープログラム

- ① 期間：平成23年7月25日(月)～平成23年8月22日(月)
- ② 場所：米国 オレゴン州ポートランド ポートランド州立大学 (PSU)
- ③ 対象：全学部1年次
- ④ 参加者：計25名
(医学部:6名、歯学部:6名、薬学部:8名、保健医療学部:5名)

2. JCCサマープログラム

- ① 期間：平成23年7月25日(月)～平成23年8月15日(月)
- ② 場所：米国 ニューヨーク州 ジェームスタウン
ジェームスタウン・コミュニティカレッジ(JCC)
- ③ 対象：全学部・全学年(募集人数10名)
- ④ 参加者：計9名
(医学部:3名、歯学部:1名、薬学部:4名、保健医療学部:1名)

3. オックスフォード大学 学生海外研修

- ① 期間：平成23年7月25日(月)～平成23年8月15日(月)
- ② 参加者：2名 (医学部:1名、薬学部:1名)

4. チューレン大学 学生海外研修

- ① 期間：平成23年8月6日(土)～平成23年8月22日(月)
- ② 参加者：3名 (医学部:3名)

※3.及び4.の研修については、上級学年(2年生以上)のみが対象となります。

■ サタデークラブへの参加

去る5月21日(土)および7月2日(土)に、サタデークラブが開催されました。サタデークラブとは、地域の方々と障害のある児童・生徒とが互いに理解し合う場として山梨県立ふじざくら支援学校のPTAボランティア部が開催しているものです。例年、富士吉田校舎の学生もボランティア活動の一環として参加し、支援学校の児童・生徒と一緒にレクリエーションなどをおこなっています。

今年度は、事前に募集をおこなったところ40名以上の学生から応募があり、そのうち5月21日には20名以上、寮祭の翌週7月2日には12名の学生が参加しました。5月21日は体操やポートボール等で児童・生徒と一緒に汗を流し、また7月2日はふじざくら支援学校の夏祭りのサポートを通じて障害のある児童・生徒への理解を深めることができました。毎回、非常に有意義な行事となっています。

編集委員 高田中成



■ 編集後記

今年の梅雨は首都圏では空梅雨の印象となりましたが、季節は遂に夏本番を迎えました。富士吉田校舎では前期試験も終わり、いよいよ学生たちの待ち望んだ夏期休暇に入りますが、例年とは異なり、8月23日(火)より後期日程が始まる短い夏期休暇となります。学生の皆さんは、その間に英気を養い、9月中旬から始まる初年次体験実習に備えてください。

さて、今回の『白樺・百合』は学生入学・入寮から6月末の寮祭までイベントが盛り沢山でした。その慌ただしくも楽しい学生生活が、誌面から伝わればとの思いで編集いたしました。次号は、初年次体験実習をメイン記事とする予定であります。紙面を埋める学生たちの真剣な表情にご期待ください。 編集委員 高田中成

白樺百合

昭和大学
富士吉田キャンパスだより
第13号 2011.7.20発行

発行責任者 富士吉田教育部長 片桐 敬
編集責任者 富士吉田教育部広報委員長 倉田知光
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL 0555-22-4403



富士吉田教育部 事務長 井上敏勝 撮影

昭岳舎球技場の芝生化

昭和大学富士吉田教育部地域交流委員会 委員長 堀川 浩之

この度の東日本大震災により、被害に遭われました多数の皆様とそごご家族の方々に謹んでお見舞い申し上げます。

昭和大学富士吉田教育部でも、計画停電への対応について議論を重ねた後に、新入生を迎えました。年間スケジュールも見直し、後期は夏休みを短縮し早々に開始することになっています。幸い計画停電は今のところ実施されていませんが、節電のため体育館などの夜間照明を制限するなどしており、学生の皆さんにはクラブ活動で多少の不自由を強いています。しかし授業は順調に進んでおり、5月のオリエンテーリングや6月の寮祭などの行事も開催され、例年と変わらぬ日々が過ぎていきます。

今年は、昭岳舎球技場を鳥取方式というやり方で芝生化しています。日本ではラグビーやサッカーも土のグラウンドでプレーする機会が多いのですが、本来は芝の上で行うスポーツです。昭和大学でも良い環境を提供するために芝生化を計画しました。鳥取方式というのは日本の風土に適し、生長速度が速く回復力もあるバミュダグラス(ティフトン)をポット苗として育て50cm間隔で移植し芝生化するものです。ポット苗は日本サッカー協会のグリーンプロジェクトに応募し、採択されました。グラウンドにはスプリンクラーを設置し、芝植えを6月19日、27日に実施しました。地域交流委員会の活動として当日は学生150名に加え、富士吉田ラグビー協会からも150名、また例年植花活動を共同で実施しているロータリークラブの方々の参加がありました。お手伝いいただいた皆さんありがとうございました。今の段階ではまだ土の部分が目立ちますが、これからはラグビー協会の方と共に肥料をやり芝刈りをして養生していきます。夏休み後にはどのようになっていることでしょうか。皆さんあたたかく見守ってください。

■ 広報誌名称について

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮(男子寮)」「百合寮(女子寮)」の二寮からスタートしました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日ごとに成長をとげて前進しつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願いが込められています。

大学では学生の国際交流を推進するため、海外実習・研修補助制度を設けて積極的に支援しています。



寮祭実行委員長 医学部 渡辺 健 (皖星高等学校出身)

今年は寮祭期間中の天気予報が曇り一時雨と芳しくなく、前日まで実行委員会、音響業者の方、教務課の方で晴れ、雨、晴れ→雨、雨→晴れの各パターンをシュミレーションしていました。しかし、いざ当日を迎えると二日間とも快晴で気温も30度を超え、真夏のような陽気のもとで寮祭を開催することができました。梅雨にもかかわらず、夏祭りのような活気があり、大盛況だったと思います。

実行委員会では寮祭のテーマである「結」にちなみ、結企画として三つの企画を行いました。

- 1: 有志で作製したミサンガを全寮生が身につける。
- 2: グラウンドに「2011 結」の人文字を全寮生と寮監さん、教務課の方で作り白樺寮の六階から写真を撮る。
- 3: 東日本大震災義援金の募金活動。

1は個人同士の結、2は昭和大学富士吉田校舎内の結、3は昭和大学富士吉田校舎外との結を目的として企画しました。1、2、3とも協力してくれた皆さんのおかげで大成功を収めることができました。最小限のルールの中で自由に企画の立案から実行まで行い、成功させたことは私たちにとって大きな自信にもなりました。

寮祭後、私は少しの寂しさも多く達成感とともに、すばらしい仲間にも恵まれた幸福感にも包まれています。このような貴重な経験を大切に、今後の成長の糧にしたいと考えています。

最後に温かく見守ってくれたり、困ったときには助けてくれたりした先生方や教務課の方、食堂の方、ボイラーさん、寮生みんな、寮祭に関わった全ての方に感謝しています。

ありがとうございました。



体育祭を振り返って

体育祭部門長 歯学部 栗田尚弥 (平塚江南高等学校出身)

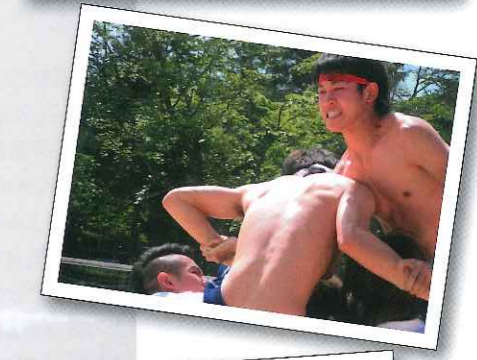
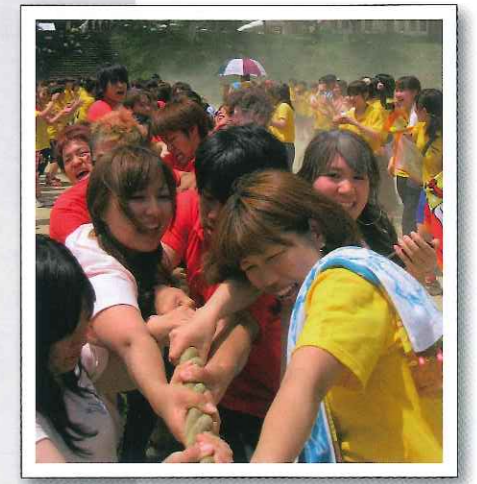
今年の体育祭は天気にも恵まれ、また大きな問題もなく無事に閉会することができ、今はほっとした気持ちでいっぱいです。しかし、体育祭前日まで部門内での意見のすれ違いなどがあり、正直、体育祭を問題なく開催することができるのか心配でした。

そもそも、私が体育祭の部門長に立候補したきっかけは、高校時代に体育系のイベントを取り仕切った経験があり、その時やりがいを感じたので、この昭和大学の体育祭でも自分の経験を活かして盛り上げたいと思ったからです。また昭和大学の一年生は寮生活を送っていることもあり、仲間意識が強く、団結力も備え、私たち体育祭部門の掲げる「全員が参加し楽しむことのできる体育祭」を開催できると確信していました。

しかし、開催するまでの道のりは決して容易ではありませんでした。約六百人の学生をまとめあげ、誘導しなければならぬのです。そのため、部門内での話し合いの場として会議を幾度も開きました。この会議は本番が近づくにつれ、意見が激しく飛び交い、もめることもたびたびありました。

そして、試行錯誤を繰り返し、体育祭当日を迎えました。当日は、部門員一人一人が自分の役割を全うし、円滑に進めようと努力してくれたおかげもありますが、学生全員が自覚的に行動してくれたことで予想以上の盛り上がりを見ることができました。みなさんには本当に感謝するとともに、昭和大生の意識の高さ、勉学に励む時との「メリハリ」には感心させられました。また、体育祭を行うにあたり、体育の先生方にはお忙しいところいろいろとお世話になりました。心からお礼申し上げます。

この体育祭で周りの人との絆が深まったことと思います。この絆を今後の学生生活でも持ち続けていってくださることを願うとともに、部門長としてこのような仕事に携わることができ、誇りに思っています。



|| 新生歓迎会・ウェルカムパーティー

4月9日土曜日の午後より、新生歓迎会が開催されました。従前は、この時期にクラブの勧誘を目的としたいわゆる「新歓」がおこなわれていましたが、今年度からは大学の行事として、富士吉田より集立っていった上級生と教職員とで、新入学生の入学・入寮を祝う式典を催しました。歓迎会は第一講堂で、昭和大学学生部長の荒川先生のご挨拶から始まり、学友会会長の市橋くん、元富士吉田校舎学生会中央委員長の石川さん(平成21年度)、濱田さん(平成22年度)と歓迎の挨拶は続きました。また、平成22年度赤松寮寮長の神林くん、同すみれ寮寮長の高屋敷さんより富士吉田校舎の過ごし方について有益な助言がありました。昭和大学でのクラブ活動については、昭和大学学生から百々くんが代表して分かりやすい説明をしてくださいました。最後に、応援指導部より昭和大学校歌の指導を受け、閉会となりました。



中川さんより謝辞がありました。医学部学生部長の宮崎先生による乾杯の発声を契機に飲食・歓談が始まりました。パーティーは昨年に引き続き立食形式でおこなわれ、最初はごちなさの感じられた学生達の間にも教職員や上級生に促されるうちに次第に打ち解けた雰囲気になり、華やかな活気のうちに閉会となりました。

編集委員 高田中成

|| オリエンテーリング大会

今年で4回目となるオリエンテーリング大会は、快晴の空とさわやかな風の中で行われました。この日は、富士山も素晴らしく綺麗に見え、オリエンテーリングには絶好のコンディションでした。オリエンテーリング大会は、入学しておよそ1ヶ月間が経過し、お互いのことを分かり始めた頃に行われ、部屋コンの学生同士の結びつきをさらに強くするとともに、指導担任とコミュニケーションをとる絶好の機会となります。学生たちはもちろん、年々、指導担任たちも白熱して、学生たちと一緒に6kmの道のりを歩く指導担任も増えてきました。優勝を目指して勢いよくスタートする部屋コン、歌を歌いながら楽しく歩き出す部屋コン。首を長くしてゴールを待つ指導担任の気持ちなどつゆ知らず、豊かな自然に浸り、のんびりゴールした部屋コン。それぞれ6kmの道のりを楽しみました。

グループで行うオリエンテーリングには、何よりもチームワークが必要になります。次に進む方向をみんなで考え、話し合い、疲れたときにはお互い

を気遣い、励まし合う。これはまさに、「チーム医療」の担い手となる学生たちに今後求められる資質ではないでしょうか。学生たちはオリエンテーリングを通して、貴重な経験をしたと思います。

体育学担当 弓桁亮介



注) 部屋コン：昭和大学では指導担任制度をしており、各教員が1グループ16~20名の学生の担任となっており、きめ細かい指導を行っています。このグループの通称が「部屋コン」です。



ては異例の猛暑に。寮祭の模擬店やステージイベントをめぐる参加者の皆様は、照りつける日差しの中、学生たちの熱気のもとますます興奮を肌で感じ、キャンパス生活の楽しさを味わっていらっしゃいました。

一方で、「入試突破体験相談コーナー」の開かれた講義棟5号館には一年生の代表学生たちによるブースが学部・学科ごとに設けられ、先輩・後輩としてともに寮祭を満喫する日の到来を願って、真剣なかにも笑顔の絶えない質疑応答がかわされました。

正午をまわると、ご希望の方は三々五々、学食へ。在校生とともに学食を味わう特別企画「昼食体験」。専属の栄養士・調理師によるメニューをご父母の皆様にもご堪能いただきました。

じりじりと暑さの増すなか、第二講堂では片桐敬学長(富士吉田教育部長を兼務)による大学紹介に続いて医学部1年生・中川由加里さんからのメッセージが披露され、「至誠一貫」の精神を育む学生の声に会場を埋める皆様が耳を傾けていらっしゃいました。

続いては施設見学会。講義棟、自学自習の実践の場であるSGSセンターをめぐる、男子・女子各寮へ。案内を務める学生たちの説明には、日々を過ごす寮の主役たちの説得力があふれていました。

受験生と在校生とのフリートークで締めくくられた今期のオープンキャンパス。会場は終了時刻を過ぎてもお、歓談の声に包まれていました。

オープンキャンパス委員 田中周一



|| 平成23年度前期オープンキャンパス

新たに昭和大生の仲間入りをした一年生たちも寮生活にすっかり慣れ、前期最大のイベントである寮祭の活気が学内にあふれる6月26日、今年度前期の富士吉田校舎オープンキャンパスが開催されました。来年度の受験生に加え多数のご父母を含む総勢約300名の皆様も、全国各地からこの富士の裾野の学び舎にお集まりくださいました。

当日は梅雨とは思えぬ快晴。気温はぐんぐん上昇し、富士吉田の6月とし